

## 第一章 人間尊重の学習支援

## 第一節 同時同学習の問題 ——— 10

- 一 全員が同一歩調で進む同時同学習 ☒ 10
- 二 新出漢字一斉指導の非効率 ☒ 11
- 三 お助けマンという名のお邪魔マン ☒ 12
- 四 発問誘導型読解授業の問題 ☒ 13

## 第二節 同時異学習のすすめ——発想の転換 ——— 16

- 一 選ぶ自由、選ぶ責任 ☒ 16
- 二 共通の大枠の中での異学習 ☒ 17
- 三 なぜ同時異学習か ☒ 19
- 四 個別と一斉を使い分ける ☒ 20

## 第三節 言葉の自己教育——学ぶ主体は本人 ——— 20

## 第四節 国語学習を楽しく実りあるものにするために ——— 21

## 第二章 学習と評価

## 第一節 優劣や順位を明らかにするための評価 ——— 24

- 一 公平・公正な選抜試験 ☒ 24
- 二 優劣や順位による動機付けの限界 ☒ 24
- 三 「全国学力・学習状況調査」の弊害 ☒ 26
- 四 目的によって変わる評価：： 27

## 第二節 学習者を理解するための評価 ——— 29

- 一 観察法 ☒ 29
- 二 評価の心 ☒ 31
- 三 自分の目で見る ☒ 32
- 四 子どもの長所を見る目が子どもの自己肯定感を高める ☒ 33
- 五 評価は長い目で ☒ 34
- 六 個人差を受け入れる ☒ 34
- 七 子どもの誤りに気付いたら ☒ 35
- 八 試行錯誤による学び ☒ 37
- 九 誤りに潜む発達のあかし ☒ 38

## 第三節 省察的評価 ——— 40

- 一 試行錯誤にはたらく省察的評価 ☒ 40
- 二 自分の満足が評価のよりどころ ☒ 40
- 三 心の中で行う省察的評価 ☒ 41
- 四 感想文による振り返り評価の問題 ☒ 41

## 第三章 言葉が育つプロジェクト単元

## 第一節 言葉が育つプロジェクト単元 ——— 44

- 一 子どもが目的達成を目指して活動する単元 ☒ 44
- 二 コミュニケーションの相手：： 44
- 三 プロジェクト単元で育つ自律性と人間関係調整能力：： 45

## 第二節 言葉が育つプロジェクト単元の具体案 ——— 46

- 一 絵本を作る ☒ 46
- 二 創作する ☒ 47
- 三 未来新聞を作る ☒ 48
- 四 見学の案内冊子を作る ☒ 49
- 五 アンソロジーを作る：： 49

- 六 読書案内をする ☒ 51
- 七 大判名刺で遊ぶ ☒ 52
- 八 「なりきり自伝」を作る ☒ 54
- 九 愛読書語彙辞典を作る ☒ 54
  - 一〇 カルタを作って遊ぶ… 55
- 一 復元音読遊びをする ☒ 56
  - 一二 スピーチ交流会をする… 58
- 一三 声のキャッチボール遊びをする… 59
  - 一四 試験への挑戦 ☒ 60

### 第三節 プロジェクト単元の構造

60

- 一 単元を貫く目的意識 ☒ 60
  - 二 活動目的と学習指導上のねらい ☒ 61
- 三 単元名の付け方 ☒ 62

### 第四節 プロジェクト単元における評価

64

- 一 評価の観点 ☒ 64
  - 二 活動の過程ではたらく省察的評価 ☒ 64
- 三 活動終了後の振り返り評価 ☒ 65
- 四 教師が目指すのは結果の見栄えでなく、子どもの成長 ☒ 66

### 第五節 言葉が育つプロジェクト、その六分類

66

- 一 作るプロジェクト… 67
  - 二 演じるプロジェクト… 67
- 三 解明するプロジェクト… 68
  - 四 遊ぶプロジェクト… 69
- 五 向上を目指すプロジェクト… 71
  - 六 味わい楽しむプロジェクト… 71

### 第六節 単元と年間計画は教師が作る――まずは教科書を活用

73

- 一 検定教科書を参照して単元を作る ☒ 73
  - 二 教科書にしばらく使われないで活用する ☒ 74
- 三 計画はおおまかに、運用は柔軟に ☒ 75
  - 四 単元に固定的な型はない ☒ 75
- 五 思い付きに宝がある ☒ 76

### 第七節 ドイツで見たプロジェクト

77

- 一 自分の好きなテーマで本作り… 77
  - 二 ドラゴンをめぐって総合的に活動… 78
- 三 生命誕生をめぐる大プロジェクト… 78
  - 四 「宗教」の授業で詩を翻作 ☒ 80
- 五 「愛がいっぱい」という名の本作り… 80
  - 六 文学作品を上演 ☒ 81

### 第八節 プロジェクト一覧

82

- 一 書く・作文 ☒ 83
  - 二 翻作活動を通して読む ☒ 84
  - 三 アンソロジーを作る… 85
- 四 読書案内 ☒ 86
  - 五 味わい楽しむ ☒ 86
  - 六 話す・聞く・話し合う ☒ 86
- 七 発音・発声・文字・語彙・文法など ☒ 87
  - 八 他教科・領域との連携 ☒ 88
- 九 調べる・情報活用 ☒ 91
  - 一〇 遊び・その他 ☒ 91

## 第四章 翻作のすすめ

93

### 第一節 翻作とはどういうものか

94

- 一 かえる翻作 ☒ 94
  - 二 なぞる翻作 ☒ 95

### 第二節 翻作の素材と方法

96

### 第三節 翻作の全容

97

- 一 かえる翻作いろいろ ☒ 98
  - 二 なぞる翻作いろいろ ☒ 99

### 第四節 翻作による学習活動の具体例

100

- 一 声で遊ぶ ☒ 100
- 二 視写して作る ☒ 105
- 三 人物や文字・語句・文体などをかえて作る ☒ 107
- 四 芸術的表現 ☒ 115
- 五 ゲームにする： 117
- 六 古典で翻作 ☒ 119

#### 第五節 翻作の効用

124

- 一 理解・表現両面の学習に有効 ☒ 124
- 二 言語的素養を豊かにする ☒ 124
- 三 表現のために理解を深める ☒ 125
- 四 書くことがなくて困るということがない ☒ 126
- 五 文化継承の方法としての翻作 ☒ 127

#### 第六節 翻作はこれまでも行われてきた

127

#### 第七節 翻作と創作

129

## 第五章

### 国語学習の総合性——「三重カリキュラム」という見方

131

#### 第一節 国語科はミニ総合科

132

- 一 言語学習の二重性 ☒ 132
- 二 国語科の総合性 ☒ 133

#### 第二節 すべての教科で言語学習——国語科をこえて広がる国語学習

134

#### 第三節 国語と国語科

136

- 一 国語科の特色と魅力 ☒ 136
- 二 国語科が受けもつ学習範囲 ☒ 137

## 第六章

### 幼児期の言葉と文字

139

#### 第一節 幼児期の言葉の育ち

140

- 一 交流の中で育つ言葉 ☒ 140
- 二 通じる喜び ☒ 141

#### 第二節 幼い子なりの読み書き

144

- 一 生活や遊びの中で自然に始まる読み書き ☒ 144
- 二 幼いながら自分で読む ☒ 146
- 三 幼いながら自分で書く ☒ 148

#### 第三節 幼児期の読み書きと発達支援

149

- 一 耳からの読解と口による作文 ☒ 149
- 二 おおらかに見守る ☒ 150
- 三 環境設定 ☒ 150

#### 第四節 言葉や文字が育つ遊び

151

- 一 翻作劇遊び ☒ 151
- 二 替え歌遊び ☒ 152
- 三 問答つなぎ遊び ☒ 153
- 四 合わせ話遊び ☒ 154
- 五 七夕遊び ☒ 154
- 六 にじみ絵本遊び ☒ 155
- 七 名前の音節や文字で遊ぶ ☒ 156

あとがき

159

注

160